

# 会報 安曇野教育

## 第53号

発行所 安曇野市教育会  
 発行人 大島 春彦  
 編集 会報委員会

発行日 平成28年12月1日  
 題字 川田 殖

安曇野市教育会の本年度の重点の一つに「講演会や同好会活動など互いに誘い合って研鑽する気風を高め、会員及び教職員の職能の向上に努める」があります。本年度からスタートした「研修日」のねらいは、同好会の活動をより活発にし、授業力の向上や教職員の学びあいの機会を増やすことにあります。本年度は同好会の活動日として、七月、十月、十一月に三回設定されました。そして、その活動内容としては、授業研究や指導案の作成・検討、講演会等多様に考えられますが、すべての「研修日」でイベント的なものにと考えるのではなく、日々の授業で困っていることや実際に工夫している点の情報交換など、あまり準備に大きな負担とならないこと、そして先生方一人ひとりの日々の実践により近いものであることも、大切に考えたい方向とされました。

十七の同好会の幹事長の先生方には、短い期間の中で三回の「研修日」の見通しをつけていただき、また各回の内容について企画、準備、運営をしていただきました。その計画の一览表を見てみると、各回ともとても工夫され、しかも新たな視点も加味された内容で、「研修日」への期待が一層高まりました。



「研修日」の  
 スタートにあたり  
 常任副委員長  
 丸山 福一

本年度は初の取り組みであったため、「研修日」と各学校の会議や行事との調整が十分にできていない面もありました。そんな中でも、各学校ではできる限りのやり繰りをしていただき、初回の「研修日」から大勢の先生方が各会場校に集まって研修が行われました。

今後この「研修日」が互いに誘い合っ

て研鑽する気風を一層高め、先生方がつながり、学びあいながら職能の向上に資するものとなっていくことを願っています。そして何よりもそのことが子どもたちの笑顔につながっていくこと、それが「研修日」スタートの原点であると思っています。

豊科北中学校区で行ったアンケートの結果からは、「低学年で多かった外遊びが高学年になると減り、ゲーム、ネットが増える。インターネットの閲覧時間に関して保護者と子どもとの意識のずれがある」ということがわかった。また、豊科東小学校の取り組みとして「アウトメディア」へのチャレンジが紹介

された。子どもたちを電子メディアから完全に切り離すことはできないし、むしろうまく使いこなす力も求められるが、電子メディアの弊害から子どもたちを守り、親子共に電子メディアと上手につき合い、地域ぐるみで子どもたちの健全育成を図るという観点から話し合うことが確認され、五つの分散会に分かれて、話し合いが行われた。



### 安曇野の子どもを語る会

十月十五日(土)、南安曇教育文化会館で「安曇野の子どもを語る会」が開かれた。はじめに、安曇野市教育委員会教育委員長の唐木博夫先生が「安曇野には安曇野の文化として伝えられてきたものがある。例えば、礫山、光太郎、智恵子といえは自然とつながりがわかるが、今の若い人たちはそれを知らない。伝えるべきことを伝えてき

# 各分散会の様子

## 【第一分散会】

子どもたちのつながりの中でゲームや携帯といったメディアが欠かせないものになっていくこと、その使い方やつきあい方を上手にしていく必要があることが話題になった。大人が知識を持ちよい環境をつくること、子どもに自己判断する力をつけることなど、考えられる手立てがあげられた。親として芯をもって育てていくことが大事という意見もあった。

一方、ほどほどにバランスよくつきあっていくことのよさも示された。親が子どもにどんな体験をさせたいかを考え、メディアとの関わり方も親子で考えていくことの大切さもあげられた。



メディア云々よりも、それを媒体として人との関わりを持つていけばよいのではという考えも出された。会話を交わす、折り合いをつけるなどいろいろな関わりが考えられ、人と人とのつながりを広げていける可能性を感じた。

## 【第二分散会】

家庭での取り組みとしては、「子どもとゲームをやつてよい時間を決めていく」「夜何時以降は使わないことを決めていく」「時々どんなゲームをやつていいのか親が確認するようにしている」「スマホを子どもが外へは持ち出さないようにしている」などということが出されたが、友達との関係で難しかったり、子どもがゲームに夢中になるとなかなかやめさせるのが大変だったりする、という意見も出された。

子どもが自分自身で制限をかけていく力をどうやつてつけていくのかについては、「スマホ等をやめるというよりも、それ以外の自然体験等をする機会を作ることが大切ではないか」「家庭の中で話し合う機会をつくることが大切ではないか」「情報機器等に関する危険性について毎年講演をしてもらっているが、どういう危険性が

あるかを親子共知ることが大切ではないか」「親や教師も勉強する機会が大切ではないか」「中学生は高校生から、高校生は社会人からというように、ひとつ先の先輩から学ぶことで、先の見通しもあるのではないか」などの意見が出された。

メディアを否定するのではなく、危険のない状況を作り出し、それ以外の活動とのバランスをとつたりして、安曇野の子どもたちを大切にしていきたいとまとめられた。

## 【第三分散会】

まず、自己紹介をふまえ、それぞれの立場から見ると子どもたちとメディアとの関わりの実態について情報交換を行った。その中で、「メディアの中には、連絡手段としてはとても便利な物もあるが、コミュニケーションツールの一つとなつてしまうのはどうか」、「メディアの進歩で、子どもたちの目を見て話を聞くという基本的な部分の崩れ始めているのではないか」、「自分の方を見て欲しいとかさみしいとかいった気持ちを、子どもたちがゲームやネットで晴らしているのではないか」など語られた。

次に、子どもとメディアをどうやつて上手く付き合わせていくか

という点で話し合いを行った。ここでは、子どもだけでなく親も一緒に、親子でメディアと上手に付き合っていくことが必要であり、その方法としては、親もメディアについて勉強し子どもとルールを共有すること、やめた時間に来ることを見つけ、メディアから離れたときの良さを感ぜられるようにすることなどが挙げられた。

ただ頭ごなしに取り上げるのではなく、親が一定の知識を持ち、きちんとメディアと、そして子どもと向き合っていくことが大切だと感じた。

## 【第四分散会】

スマートフォンを含むメディアのもつ課題として、子どもが誰と何をしているのかわかりにくいこと、メディアの進歩に大人が追いついていけないこと、責任の所在や情報教育のあり方などが出された。また、少子化で近所に遊ぶ子どもが少ないことや、核家族・共働きで家に大人がいないことが、メディアに頼りやすい環境をつくるに繋がることが挙げられる一方、将来役立つので積極的に関わってほしいという考えも出された。

そこで、メディアのみに依存せず、バランスよく付き合っていくために、様々な体験をする機会を積極的に持ちメディア以外の楽し

さを体感させることや、家族の会話を通して情報交換すると共にコミュニケーション能力を養うことなどの考えが出され、家族のつながりを鍵にしながら、学校・地域共に考え合っていくことの大切さが語られた。

## 【第五分散会】

携帯やスマホは、子ども以上に大人が手放せないでいる現状がある。たとえば、ガソリンスタンドで給油中の様子を見ていると、親がすぐにスマホを取り出しゲームやネットをしているような光景をよく見かける。また、子どもが生まれて父親のゲーム癖がなくなるかと期待していたがほとんど変わらずに夢中になっている。そういう大人の姿を見ているのだから、子供たちもスマホに夢中になるのはやむを得ないかもしれない。

一方で良いところもある。携帯のGPS機能で子どもの居場所をつかみ安全を確認することができたり、遊ぶ時間を決めてから親子でゲームを楽しむ話題作りをしたりしていることもある。

問題なのはスマホのやり過ぎで家族との関わりが減ること。上手にスマホとつきあい、家族など周囲の人との関わりも大切にしながら健全に成長して欲しいとまとめられた。



安曇野往来

地域と共にある学校

長和町立和田中学校  
校長 坂楨 邦章



和田中学校は上小地区南西部の山間地、旧和田村に位置する、全校生徒三十二名の小規模校です。コミュニケーション・スクールの先進校として、平成二十一年度より「和田学校運営協議会」と「和田学校支援部」が設置され、地域住民による学校支援が活発に行われています。「授業」「文化歴史」「キャリア教育」「和心学習」「みどり体験」「健康体力向上」「安全安心」等の支援部が組織され、計画的、継続的な支援が行われています。そして、学校目標「心身ともに健

やかで『いのち』を愛しみ、学び合う生徒の育成をふるさとを知り、愛しみ、語り、誇れる生徒の育成」の実現に向け、学校と家庭・地域が連携し一体となって取り組んできました。その結果、平成二十三年には「学校・家庭・地域の連携推進」に対して、また、平成二十七年には「キャリア教育の充実発展」に対して、それぞれ文部科学大臣表彰を受けました。特にキャリア教育では、「アントレプレナーシップ学習(起業家精神涵養学習)」の実践が高く評価されました。それは、地域の特性を生かした「町おこし」を企画し、地域に向け発信・提案するという学習で、和田中学校の特色ある取り組みとして、多方面から注目され、高く評価頂いている活動です。本年度も十二月十七日(土)に発表会を予定し、一般公開しておりますので、是非ご参観頂ければ幸いです。

こんな和田中学校ですが、残念ながら本年度末をもって閉校し、依田窪南部中学校と統合することが決まっています。残り数か月、地域と共にある学校の良さを大切に、有終の美が飾れるよう精一杯取り組みたいと思っております。

地域と学校との絆をより確かなものに

飯田市立竜丘小学校  
教頭 志村 昌之



「教頭先生、ちようちよがいたよ」。遠足でいっしょに歩いてきた三年生の女の子が、教えてくれました。見ると、この時期では珍しいギフチョウです。例年、真珠のように輝く卵は見られませんが、ギフチョウを見られるのは珍しい、どの子も目を輝かせて見つめていました。この遠足は、「丘のみちしるべ探索」と称し、学年のテーマに沿って、ギフチョウ公園、鷺流峡(天竜川)、古墳群など、竜丘地区の自然や遺跡を巡るもので、講師は「竜丘自由学校」を中心とした地域の方々です。また、

地域の皆さんが協力して編集した資料集「丘のみちしるべ」も、子どもたちの地域学習に大いに役立っています。そして、下見や打ち合わせ、学習会等、学校の先生方にとっても地域を学ぶ貴重な機会となっています。

この他、書道、切り絵、琴、お手玉、手話、茶道等、「地域の達人に学ぶ」クラブ活動は、竜丘公民館と連携し、全てのクラブに地域講師の方々をお願いしています。こうした地域との結びつきが強いのは、大正期に自由教育が推進され、「自由画教育」が全国的にも注目されるなど、地域と学校が積極的に関わり合う精神が今も脈々と息づいているからだと思えます。

竜丘地区の子ども育成のテーマ「知り合って、地域の特色を学び合ひ、地域の子どもを育てる」をもとに、先人から受け継がれてきた地域と学校の絆がより確かなものとなるよう、新たな学社連携・融合のあり方、コミュニケーションの組織化など、歩みを進めています。



総合教育センターにお世話になり二年目となりました。日々昇ってくる太陽の高度の変化に季節の移ろいを感じながら、安曇野の地より通勤しております。

センターでは理科生物と生活科の専門主事として、年数回のセンターでの研修講座と、各校、各地区にうかがって、研修や実験講習会等で先生方のお手伝いをさせていただいております。中でも校内研修支援は時間や内容等を各校の都合に合わせて行うことができ、依頼の手続きも簡便であることから、大変好評をいただいております。

学習指導要領  
改訂にそなえて

長野県総合教育センター  
専門主事 山口 敬之



す。また、教育課題の解決や学習指導要領改訂に向けての調査研究も行ってまいります。

小学校では三十二年度、中学校では三十三年度より全面実施が予定されている今回の学習指導要領の改訂では、これまで改訂の中心であった「何を学ぶか」という指導内容の見直しに加えて、「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」の視点から改善が行われています。審議のまとめやポイント等の資料の中で、文部科学省より、「カリキュラムマネジメント」「主体的・対話的で深い学び」「新たな外国語教育」「プログラミング教育」「キャリアパスポート(仮称)」等、新たなワードが出されるたびに困惑し、不安を感じられているのではないのでしょうか。いろいろ出されてはいますが、言われていることは、これからさらに勢いを増して変化していく社会に対応するための力を、子どもたちにつけてあげるということです。そのためには私たち一人一人が、子どもたちに必要な力は何かを見極めていくことが大切です。センターではそのお手伝いができるように、研究、研修を重ねていきます。



### 素晴らしい場所 長丘 中野市立長丘小学校 教諭 降旗 巖

私が昨年度からお世話になっている中野市立長丘小学校は、長野県の北部、中野市と飯山市の境に位置し、北陸新幹線の高架橋や千曲川がすぐ近くにあり、自然が豊かな土地でリンゴ畑と田園に囲まれています。年に一度、全校の子どもたちと城山にカタクリの花を見に行きます。一斉に咲いている花の美しさには本当に感動します。

児童は、全校で七十二人ですが、素直で明るく、元気いっぱいな子どもたちばかりで、毎日一緒に遊びながら、楽しく過ごしています。

そんな素晴らしい場所で昨年から勤務させていただき、色々なことを学ばせていただきました。特に、総合的な学習の時間には、絶滅危惧種のホトケドジョウの育成に取り組みました。子どもたちが命と向き合い、様々な課題を理解していく姿から、大きく成長していることを感じる事ができました。また、地元のお祭りに参加し、地域の中で育てられている子どもたちを見て、長丘の素晴らしさを日々感じています。

長丘小学校は今年、統合五十周年となる記念の年となりました。調べてみると、中庭に植えられた木にも、色々な歴史があったり、先輩達からの願いが込められていたり、驚きと感動を感じる事ができ、身近にたくさんの方がいることが分かりました。それを子どもたちに伝えていくのも自分の大切な役目だと思っています。きつと生まれ育った安曇野にも、素晴らしい出会いや歴史があるんだと思う。長丘の地で学んだことを、地元の安曇野へ戻った時に活かしていけるといいなと考えています。



## 各種委員会からの報告

### 【教育課題(体力向上検討)委員会】

本委員会は、市体力向上推進委員会を兼ね、①健康や体力・運動能力の現状理解と課題や原因の検討②健康・体力・運動能力の向上や生活改善のための具体的な方法の検討と提言③幼保小中が連携して取り組む方策の検討と提言を目的として活動しています。

や内容等を配慮しながら実践記録集に追加する事例を選び、資料を作成しています。

また本年度、新たに市内各校の人権教育担当の先生方にご協力いただき、「人権に関わる講演会の講師」「視聴覚教材」「読み聞かせや資料として利用した書籍」についてのアンケート調査を実施しました。アンケートの結果は、まとめて各校に配布させていただきますので、是非、来年度以降の人権教育でご活用ください。

### 【図書館教育委員会】

中学校での保健体育授業や特設時間を使った体力トレーニングの取り組み、小学校での姿勢指導や体幹トレーニングの取り組み、保育園・幼稚園の実態調査、各校の体力向上の取り組みの評価等について調査研究を進めています。

本年度は、図書館教育をより充実させていくため、学校図書館に関わる司書や司書教諭が連携し、情報を交換する機会を持ったための学校図書館協議会を、次の通り開催することができました。

### 【人権教育委員会】

本委員会では、委員が所属する各校での人権教育の取り組みについて、資料を持ち寄り情報交換しています。各校から持ち寄った実践事例の中から、学年

十月二十四日、講師に小松雄也さん(一般社団法人ビブリオポール 代表理事)をお招きし、明科中学校にて「お気に入りの本で戦え！〜ビブリオバトルに挑戦〜」(三年一組授業者 鎌倉清子教諭)の授業公開を行いました。その後、小松さんによるビブリオバトルに

ついでに講演、小中別意見・情報交換を行いました。

ビブリオバトルの面白さや、読書指導の在り方について、学ぶ機会を持つことができました。

【環境教育委員会】

本年度の活動は次の三点です。

環境に対する理解を深める活動として、「安曇野環境フェア」では、豊科南小環境委員会のピオトープに関する活動と明科中の総合の時間での学びを発表し、広く学校での活動を紹介できました。

地域に根差した環境教育の授業実践の蓄積として、穂高北小四年生の総合の時間「広めよう！ここだけの天蚕を」の授業参観を二度行わせていただきました。今後、実践をまとめ紹介していきます。

また、来年度より安曇野市全十七校で取り組む「エコアクション21」について、市環境課と協力しながら、無理なく取り組むことができるよう研究していきます。

【社会科学資料集編集委員会】

安曇野巡検は今年で十回を数え、多くの皆様に参加していただきました。今年度は、五ヶ用水、

矢原堰、新田堰、勘左衛門堰、拾ヶ堰と江戸時代に開削された主な

用水について巡検をしました。明科地域の用水を取り上げることが以前からの課題でしたが、ようやく実施できました。五ヶ用水に沿

い、犀川右岸の山裾を通すにあたって苦労した箇所を見学しました。平地での開削とは異なり、山

間部を通る用水の大変さを実感できました。今後も市の産業を中心に三・四年生の学習内容に合った場所を巡検し、授業に活かせるようにしたいと考えています。資料集のアンケートを実施します。

【人物読み物委員会】

安曇野の偉人について調査研究し、児童生徒への教材化を視野に入れながらその業績をまとめたい

です。委員会では地域歴史家である中島博昭先生をお招きし、各委員が

まとめている人物一人一人についてのご指導をいただきました。「A4版一枚の中にどれだけその人物を表現できるかが難しい。毎年精力的にその人物のエピソードをまとめていくことに敬服している。今後は活用法についても探ってほ

しい」とご指導いただきました。

教育会ホームページに、今までまとめた人物が掲載されています。ぜひ一度ご覧ください。

【キャリア教育委員会】

本委員会では、平成二十八年度版「進路学習資料集」の編集頒布とキャリア教育の調査・研究の二点を中心に活動しています。

「進路学習資料集」では大きな改訂はないものの、長野県下の最新の高校の情報や先輩からのメッセージを掲載しています。また、進路指導の学習に役立つページも作成し、主に二年生での活用が期待されています。各高校の協力に感謝するとともに、各中学校で役

立てていただきたいと思えます。また、キャリア教育の調査・研究では、各委員から提出された実践例をキャリア教育の四つの視点に基づきレポートにまとめることを行っています。

【木村素衛委員会】

本年度、木村素衛委員会では日記No.四十・四十一（昭和十年八月）の判読作業を行っています。

木村先生は、三十八歳の時、京

都帝国大学文学部助教として教育学教授法の講座を行っていました

が、呼吸器疾患のため二年間休講しました。四十号が書かれた四十歳は休講して一年たつころで、

経済困難・公務障害・身体の弱りで読書が出来なくなり、神経衰弱的になります。そんな自分を何とかしたいと何度も試みた時期もあつたようです。しかし、徐々に回復していく様子もうかがえます。

今度も委員八人で協力して判読作業を行い、二月に最終校正を行う予定です。

【郷土文化財センター運営委員会】

昨年度に引き続き、所蔵品の管理と紹介、そして郷土文化財センターの新パンフレットづくりに関する点をおき活動してきています。

パンフレットは、レイアウトの骨子がほぼできていますが、掲載写真の肖像権の確認、また、子どもたちにも安曇野市の偉人がわかるように、工夫をしています。また、所蔵品について調べたものを

会報「安曇野教育」に毎号掲載していただいています。さらに、本年度初めて、豊科郷土博物館と共催をして「レッド・

東西南北

郷土の良さを伝える引き出し

県外に親戚がで

き、安曇野を案内することになった。安曇野を訪れるのは初めてだというので、今回は大王わさび農場へ行き、わさび栽培の歴史や地形などを説明し、西の山麓線まで行って安曇野を俯瞰してから宿へ送った。

安曇野は、見所がたくさんあるが、その人の興味がどこにあるかや来訪歴によって、案内先が決まる。私の親戚の場合は、これから何度も案内する機会があるので、次はどこへ行こうか考えなくてはならない。安曇野の住人としては、それに答えられるだけの引き出しがあるか問われる場

でもある。これは安曇野の子どもたち

にいかにか郷土の良さを伝えるかということにもつながる。私たちの先輩は、郷土の自然を調べ、歴史をたどり、先人の歩みを学んできた。それらは会館の郷土文化財センターや市内の博物館等に残されている。現在教育会で取り組んでいる「安曇野の先人等に学ぶ会」や「安曇野巡検」などもその流れを汲んでいる。これからも、この安曇野のすばらしさを見つけ、子どもたちに伝える引き出しを増やしていきたい。



データブック展」を安曇野市児童生徒「ものづくり展」に合わせて、開催いたしました。

【展覧会運営委員会】

本委員会では、市内小中学生の学習の成果を発表する場として、次の活動を行ってきました。

【科学展・書道展・図工美術展】  
○各校に作品を募集するとともに多くの先生方に審査員をお願いし、市内巡回展の作品審査を行いました。

○市内巡回展

科学展：十月～十二月  
書道展：十月～一月

図工美術展：十一月～一月

それぞれ入選作品が各学校を巡回しています。学習の成果を確かめ合っていただければと思います。

【市内児童生徒ものづくり展】

○教育文化会館大会議室にて十月二十九日から十一月四日までの間開催しました。

今年度は七日間の展示となりましたが、各校児童生徒より寄せられた立体作品と、図工美術展の地方入選絵画作品を展示し、児童生徒の皆さん、保護者の皆様を中心にご覧いただきました。

【会誌委員会】

本委員会は、二月下旬に「安曇野教育」第十一号の発行を計画しています。現在、各校より推薦していただいた先生方が原稿を執筆中です。

本号の巻頭座談会では、「子どもたちの『食』を考える」というテーマで、栄養教諭の方や給食センターの栄養士、農村生活マイスター等の方々に討議していただく予定です。郷土の博物館・美術館シリーズに替わる新たなシリーズ「安曇野遺産」が本号からスタートします。また「先輩こんにちほ」では、現在も音楽に関わる様々な活動をなさっている三原壽雄先生からお話を伺います。楽しみにしていてください。

【会報委員会】

今年度より会報の発行を四回とし、これまで三回発行しました。また、定時総会で決定したことを速報という形で発行しました。総集会や安曇野の子どもを語る会など、教育会の活動の様子とともに、会員が互いの活動内容を知る機会になればと考え、各種委員会や同

好会の活動についても紹介してきました。郷土文化財センター運営委員会にご協力いただいている「郷土の文化財」や校長先生方に執筆していただいている「東西南北」も、引き続き連載しています。今後も教育会の機関紙としての使命を果たすため、会員の皆さんに情報を提供していきたいと思えます。これまで執筆にご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

【情報委員会】

情報委員会では、安曇野市教育ウェブページの更新作業を中心に活動してきました。特に会報の掲載では、個人情報に配慮して修正し、できる限り迅速に情報提供できるように心掛けています。安曇野市教育会の会員はもちろん、より多くの方々にとって役立つ内容になるようなウェブページ制作を目指したいと考えています。

また、定期的に市内全小中学校のウェブページのチェックもさせていただきます。教育会より各校のページのほうが閲覧者ばかり多いと思いますので、負担にならない程度の情報更新を各校で引き続きよろしく願います。

郷土の文化財 33

豊科郷土博物館共催企画「レッド・データブック展」

十月二十九日(土)から十一月四日(金)まで、安曇野市児童生徒「ものづくり展」の期間に合わせて、郷土文化財センター内で、初の豊科郷土博物館との共催企画、「レッド・データブック展」を開催いたしました。

もともとはこの郷土文化財センターにあった昆虫標本、今までの先輩たちが収集し、この委員会が管理してきたものです。三年前に安曇野市に移管して、更に大切に保存していただいているものが、今回教育会館に久しぶりに戻ってきました。

予想していた以上にかんりの人数の方々に見ていただき、準備をしてくださった豊科郷土博物館の皆さんに感謝です。これを機に、この場所で個展などが開けるのではないかと利用方法の可能性も見えてきました。

今後展示を工夫し、たくさんの方に足を運んでもらえる場所にできればと思います。

(郷土文化財センター運営委員会)



編集後記

「安曇野往来」では、安曇野を故郷とされる先生方から原稿を寄せいただきました。それぞれの地で、子ども達や地域の方々と共に

に生き生きと活躍されている様子が伝わってきました。また、今号では「安曇野の子どもを語る会」や各種委員会の取り組みについてもお伝えすることができました。ご協力ありがとうございました。